

日本近海に埋蔵される天然資源の写真が電子黒板に次々と映し出された。レアアース(希土類)、メタンハイドレート、コバルト、マンガン……。埼玉県秩父市立高篠中学校2年の総合学習を使った「領土」の授業。長谷川博之教諭(36)が尋ねる。「レアアースは携帯電話の部品の材料にもなり、21世紀を制する資源です。では、南鳥島の周辺には日本で使う何年分が眠っているでしょう」

生徒たちから「100年分」「一生分」との声が上がる。「正解は220年分以上。採掘できれば、日本は資源大国になれるのです」。その説明にどよめきが起きた。



次に、日本の領土の重要性について、資源と国防の観点から読み解いていく。17世紀

愛国心 5

教育ルネサンス

No 1722

領土の重要性 読み解く

以降、戦争の原因は7割が領土であることや、なぜ各国が領土を巡って攻防を繰り返してきたのかを理解してもら

以降、戦争の原因は7割が領土であることや、なぜ各国が領土を巡って攻防を繰り返してきたのかを理解してもら

以降、戦争の原因は7割が領土であることや、なぜ各国が領土を巡って攻防を繰り返してきたのかを理解してもら

でに沖縄、台湾を結ぶ第一列島線を、20年までに小笠原諸島とグアムを結ぶ第二列島線を制し、50年には太平洋でアメリカと均衡する力を持つと

男子生徒は「メディアの言う通り。日本は甘すぎ」といい、女子生徒は「戦争は嫌だけど、領土は守ってほしい。私ももっと日本のことを好きになり、領土への思いを政治家に伝えたい」と話した。

「さて尖閣諸島はどこに入るでしょう？」。長谷川教諭がそう言いながら、地図を操作すると、第一列島線の範囲内に収まった。中国が明確な戦略に基づき、計画的に行動していることを知って、生徒たちは言葉を失った。

長谷川教諭は、生徒にニュースの背景を理解させたいと授業を計画。200冊以上の本を読み、海上安全保障の専門家や政治家にも取材し、この日に臨んだ。「大切なのは事実を積み重ね、感情ではなく、客観的分析に基づいて対応を考えること」。生徒たちは知識だけでなく、戦略的な思考の基礎も学んだようだった。

尖閣諸島を巡っては、10年に中国漁船が領海侵犯し、巡視船に体当たりをした事件も取り上げた。日本は、船長を逮捕しながら「日中関係に配慮」して釈放。その対応に周

辺国のメディアは「もう日本には頼れない」(インドネシア)、「やがて国ごとなくなる」(シンガポール)と酷評。その後、中国漁船の領海侵犯が激増したことも伝えた。

メモ 中学高校の教科書では、他国が領有権を主張する日本の領土についての記述が極めて少ない。「客観的な資料を集めるのが難しい」との理由で領土の授業に及び腰になる教員もいる。そこで島根県は昨年2月、竹島が日本領になった経緯などを記した学習資料を作成、県内の小中高校や全国の教育委員会に配布した。東京都武蔵村山市も昨年末、尖閣諸島の学習資料を作成し、小中学校に配布、竹島と北方領土編も作成中だ。

(小寺以作、写真も)



領土の重要性を説明する長谷川教諭(15日、埼玉県秩父市の高篠中学校で)